よみがえる25年前

1987年12月
1988年1月

これは今から25年前を記憶や資料をたよりにひも解いてみようとする企画です

◆中国、香港、オーストラリアで国際大会

年末の12月29日に中国は桂林で中国初の国際大会を開催した。年が明けて1月1日に香港選手権にワールドカップのモデルイベント、3日ワールドカップが開催された。その後、南半球に移動し、オーストラリア・タスマニア島にてアジア太平洋選手権およびプレ大会が1月6日から13日にかけて開催された。

中国または香港に参加した人は 31名、オーストラリアに参加した人が37名。中にはすべて参加した人が3名いた。

ゴールする若梅正和君と芝　聖子さん。

←中国

オーストラリア↓

←香港

香港：ワールドカップ幕を前に記念撮影

◆25年前の高校OLクラブが抱える諸問題

OL が発展していかない理由の一つにジュニアへの普及が一向に進まないという問題があります。関東にしても、関西その他の地域でも、強い高校クラブがあっても数が増えたという話は聞いたことがない。私は、ある高校クラブの顧問をされている先生から、高校生クラブが発展していくためには非常に大きな問題をクリアしなければならないことをお聞きしました。

（高体連にオリエンテーリングはない）

オリエンテーリングがスポーツとして認知され、他のクラブと同等に体育系クラブとして活動を行うには、高体連に加盟していることが必須です。現在ほとんどの体育会系クラブは、種目が異なっても、春の総合体育大会、インターハイ、国体、新人戦と行事を共有でき、学校や教育委員会等からも多大なバックアップが期待できます。

日本中のすべての OL クラブはこの流れとは異なった行事体系となります。すなわち、公認大会や地域クラブや学生クラブの主催する大会に参加することになります。これらに参加することが高校 OL クラブにとっては難関なのです。高校側にとって高体連とは無関係のスポーツ大会にクラブを送り出すことは、勇気がいるらしいのです。もし事故が起こったらどう対処するのか、そして裁判になったらどうか、主催者に賠償能力はあるのか、という問題を考えたとき、責任者は尻込みをしてしまいます。さらに生徒がケガをした場合、高体連未加盟という理由で、保険がおりなかったり、手続きが煩雑になる可能性もあるのです。

関西のある高校クラブでは県や市の教育委員会主催の時のみ活動が許されます。地域クラブや学生クラブ主催のときは参加できません。しかし、冷静に考えたとき、現在の OL 界は高校側や教育委員会が安心できる環境とはとても思えません。

（高校生が安心できる環境を）

現在日本の OL 界は一つの転機にあります。それは JOLC から JOA への改組、社団法人化ということに表れています。高校生が安心して OL を行うなめには高体連に入らなければなりませんが、これは JOA が体協に加盟することも大きな条件になると考えます。皆で力を合わせて、ジュニアにとって望ましい環境を作っていく組織にしたいと思います。

（O-JAPAN より）

時の話題

11月29日金賢姫による大韓航空機爆破事件発生。

12月18日スケート安藤美姫誕生

12月31日横綱双羽黒は立浪親方と衝突して部屋を失踪し、廃業。

1月1日全日本実業団駅伝が開催地を上州路に移し、元日開催に変更した最初の大会が開催された。

1月9日劇団民芸の創設者で俳優の宇野重吉（歌手・俳優の寺尾聰の父）死去。